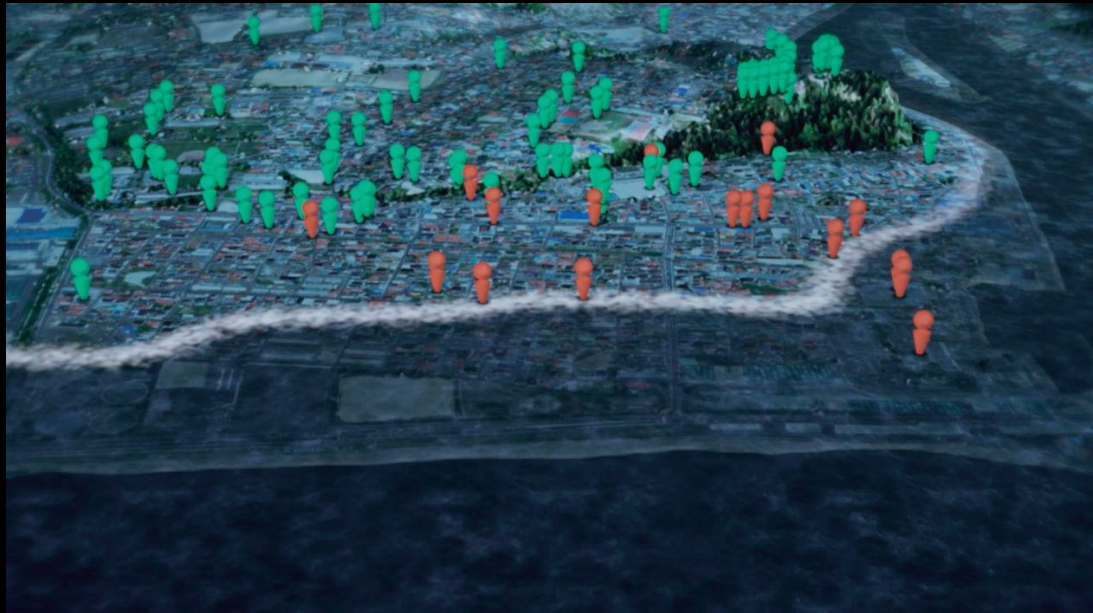


第66回 科学技術映像祭

66th Science and Technology Film/Video Festival



内閣総理大臣賞

株式会社東日本放送 テレメンタリー2024 “3.11”を忘れない93
100人の証言 命をつなぐ津波避難



対象作品：令和6年1月～令和7年3月

一般部門 学生部門

主催／（公財）日本科学技術振興財団、（公社）映像文化製作者連盟
（公財）つくば科学万博記念財団、（一財）新技術振興渡辺記念会

後援／文部科学省、NHK、（一社）日本民間放送連盟
（一社）日本新聞協会、（一財）日本視聴覚教育協会
（一財）経済広報センター、国立研究開発法人科学技術振興機構
全国科学館連携協議会、（公財）民間放送教育協会、
特定非営利活動法人 日本科学振興協会

第66回 科学技術映像祭



科学技術映像祭は、優れた科学技術映像を選奨することで科学技術への関心を喚起するとともに、その普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的として1960（昭和35）年より開催し、今回、第66回を迎えました。

優れた科学技術映像の選定にあたり、運営委員会（委員長：永野博（公社）日本工学アカデミー顧問、他委員6名）で開催の基本方針を議論し、前回65回から開催内容を大きく変更することにしました。

主な変更点ですが、65回までは、カレンダー一年の間に作成された作品を募集し、審査の上、毎年4月に実施される科学技術週間に表彰式を行っていましたが、募集する作品の制作期間を年度単位とし、次年度はじめに募集を行い、審査の上、夏休みに表彰式を行うようスケジュールの大幅な変更を行いました。

また、募集する部門も、従来の「自然・くらし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に代え、新たに「学生部門」（大学生まで）を設け、「一般部門」とともに、短編（10分以内）と長編の4つの区別で募集することといたしました。

今回、開催内容が変わる期間でもあり、令和6年1月から令和7年3月末までに作成された作品について、令和7年4月から募集を行いました（5月15日締切）。その結果、32機関から46作品が出品され、受賞作品が決定されました。

決定した作品には、内閣総理大臣賞（1作品）、文部科学大臣賞（4作品）、優秀賞（8作品）、特別奨励賞（1作品）、学生部門奨励賞（2作品）新技術振興渡辺記念会理事長賞（1作品）、つくば科学万博記念財団理事長賞（1作品）、科学技術館館長賞（1作品）が製作者ならびに企画者に贈呈されます。

第66回 科学技術映像祭 入選作品

内閣総理大臣賞

一般部門・長編	テレメンタリー2024 “3.11”を忘れない93 100人の証言 命をつなぐ津波避難 企画・製作：株式会社 東日本放送	 5
---------	--	---------

文部科学大臣賞

一般部門・長編	所さんの目がテン！ 折り紙の科学 企画・製作：日本テレビ放送網株式会社	 6
一般部門・長編	SBCスペシャル 本田先生のこころ診察室 ～発達障害のこどもたち～ 製作：信越放送株式会社	 7
一般部門・長編	チャンネル4 終わらないコロナ 後遺症と闘う18歳 製作・企画：株式会社テレビ信州	 8
一般部門・長編	NHKスペシャル ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国 製作：日本放送協会	 9

優秀賞

一般部門・長編	フロンティア 「ヒトはなぜ歌うのか」 製作：日本放送協会	10
一般部門・長編	シカマイアの翼 ペルム紀 謎の化石を追え 企画：福井県立恐竜博物館、製作：株式会社 FBCアドサービス	11
一般部門・長編	ガリレオX 精子9+2のミステリー 私たちの精子に秘められたミステリー 企画・製作：ワック株式会社	12
一般部門・長編	宇宙の電波を受けたりする PART2 並ぶパラボラの謎 企画・製作：自然科学研究機構 国立天文台	13
一般部門・長編	映像25「私らしく」初のアルツハイマー治療薬と共に 製作：MBS毎日放送	...14
一般部門・短編	サステナドームの秘密 コンクリートの未来を救う 企画・製作：株式会社Kプロビジョン 委託：鹿島建設株式会社	...15
一般部門・長編	割れた藍瓶 能登半島地震と富山湾 製作：北日本放送株式会社	...16
一般部門・短編	水無瀬イノベーションセンター イン트로ダクションムービー Impossible Object 製作：(株)DNPコミュニケーションデザイン	...17

第66回 科学技術映像祭 入選作品

特別奨励賞

- 一般部門・長編 気道を守る ～線毛細胞 微粉末生薬の知られざる働き～ ……18
製作：ヨネ・プロダクション、企画・委託機関：株式会社龍角散

学生部門奨励賞

- 学生部門・長編 私を守るのはわたし ～オーバードーズの危険～ ……19
製作：梶山女学園大学
- 学生部門・短編 電波天文学って？ ……20
製作：東京都立科学技術高等学校

つくば科学万博記念財団理事長賞

- 一般部門・短編 水無瀬イノベーションセンター イン트로ダクションムービー ……17
Impossible Object
製作：㈱DNPコミュニケーションデザイン

新技術振興渡辺記念会理事長賞

- 一般部門・長編 ガリレオX キメラ 異質同体生物が救う命 ……21
企画・製作：ワック株式会社

科学技術館館長賞

- 一般部門・短編 これからヒーロー！ #2 体の中に病院を作っちゃう？！の巻 ……22
企画・制作：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

審 査 講 評

メディア状況が目まぐるしく変化するなか、第66回科学技術映像祭はこれまでと様相を大きく変えた。最大の変更は「学生部門（大学生まで）」を設けたことである。それに伴い、表彰式を夏休み期間中に実施できるように募集期間を2025年4月1日から5月15日までとした。前年1月から今年3月までに完成した作品をこの期間に応募するよう求めたのだが、広報が間に合わなかったようである。学生部門の応募は短編（10分以下）2本、長編4本にとどまった。次回に向け、学生たちへの参加呼びかけに力を入れるよう全審査委員が願っている。

一般部門は、第65回まで設けていた「自然・暮らし」「研究・技術開発」「教育・教養」という部門をなくし、「短編」「長編」に分けるのみとした。これは審査委員からの評判も良かった。過去の審査では「この作品はなぜこの部門なのか」「こちらの部門のほうがふさわしいのでは」といった議論が必ず出て、「出品者が部門を決めた」と事務局から説明を受けてもモヤモヤ感が残った。おそらく出品者も迷いつつ部門を決めていたのではないかな。こうして「スッキリした」一般部門には、例年同様に力作が集まった。短編5本、長編35本で、全体の本数はやや少な目だったが、とくに民放のドキュメンタリーに良作が目立った。

一次審査を通過したのは、学生部門は短編、長編各1本。長編には社会的課題を取り上げた完成度の高い作品もあったが、内容が「科学技術と関連しない」という判断から落とさざるをえなかった。一般部門は短編3本、長編17本が通過した。

内閣総理大臣賞の「テレメンタリー2024 “3.11”を忘れない93 100人の証言 命をつなぐ津波避難」は、震災伝承団体による被災者への丹念な聞き取りをもとに作られた、津波到達まで石巻市の人々がどのように動いたかを表すコンピューターグラフィックスが秀逸。そのデータと人々の語りから、どういう人が、なぜ、すぐ高台に逃げなかったのかが見えてくる。これは防災科学としても貴重な成果と言える。

文部科学大臣賞は部門は関係なく全体から4本選ばれた。「SBCスペシャル本田先生のこころ診察室～発達障害のこどもたち～」は、社会で十分に理解されていない「発達障害」について、信州大学の児童精神科医・本田秀夫医師のもとに集まる何組もの親子たちのありのままの姿から考えさせる秀作。地方テレビ局の粘り強い取材力が光る。こどもたちが安心して生活できるカギは学校や周囲の人たちが握っていることがよくわかる。

「チャンネル4 終わらないコロナ 後遺症と闘う18歳」も、地方テレビ局の底力を見せた作品だ。新型コロナ感染症の後、全身が動かなくなっていて寝たきりになってしまった長野県岡谷市の女子高校生を追った。いじめや差別の問題にも視野を広げ、一方で原因解明に向けた研究者の努力もフォローし、知られざる「コロナ後遺症」に迫った。

「NHKスペシャル ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国」は、深海で高精細画像を撮る技術力に感嘆する。シーラカンスの生態が初めてわかった喜びを研究者とともに味わえたが、進化の過程を決めつけすぎているのは気になった。

「所さんの目がテン！折り紙の科学」は、エンタメの手法で科学を楽しく見せる。折り紙はこれまでもあちこちで取り上げられてきたテーマだが、昆虫の羽の折りたたみ方という生物学も取り混ぜたところに新鮮さがあつた。

優秀賞は8本。短編から2本選ばれた。「水無瀬イノベーションセンター イントロダクションムービー Impossible Object」は、錯視をもたらし立体の種明かしをしつつ、制作者のメッセージも伝わり、しゃれている。「サステナドームの秘密 コンクリートの未来を救う」は、インフォグラフィックスの使い方がうまかった。

長編では、「シカマイアの翼 ペルム紀 謎の化石を追え」が博物館による作品として出色だった。コントを使った演出に工夫が凝らされていた。「宇宙の電波を受けたりする PART2 並ぶパラボラの謎」は、難しい話をわかりやすく語り、映像にセンスが光った。「ガリレオX 精子9+2のミステリー 私たちの精子に秘められたミステリー」は精子を手掛かりに生物界の大きな謎解きの世界に誘う。「映像25「私らしく」初のアルツハイマー治療薬と共に」は、若年性アルツハイマーと診断された後も一人暮らしを続ける女性に密着した。新薬が福音なのか、深く考えさせられた。「フロンティア「ヒトはなぜ歌うのか」」は、多様な切り口で迫る面白さがあつたが、問いに答えられていたのか疑問が残った。「割れた藍瓶 能登半島地震と富山湾」は、あまり意識されていなかった富山湾の海底地震と漁業の関連を掘り下げた。

学生部門で本選に残った「私を守るのはわたし～オーバードーズの危険～」 「電波天文学って？」はいずれも学生奨励賞に選ばれた。

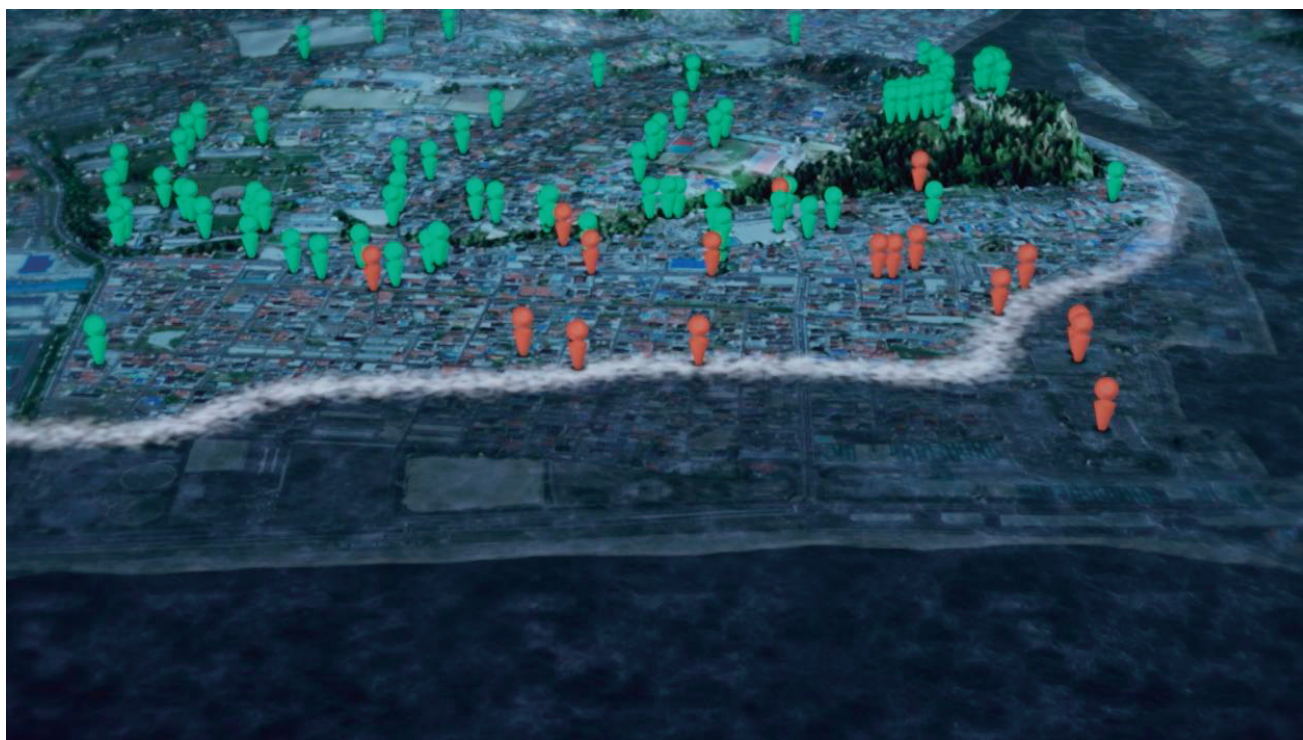
「気道を守る ～線毛細胞 微粉末生薬の知られざる働き～」は、企業PR映画ではあるが、こうした優れた顕微鏡映画を今後とも撮り続けてほしいと特別奨励賞とした。

第66回 科学技術映像祭審査委員会
副委員長 高橋真理子

テレメンタリー2024 “3.11”を忘れない93 100人の証言 命をつなぐ津波避難

企画・製作：株式会社 東日本放送

撮影・編集：佐藤健二／ディレクター・ナレーション：鈴木奏斗／
プロデューサー：藤井尚弘



100人の証言から再現した東日本大震災の避難行動CG TV:28分

製作意図

最愛の家族、かけがえのない故郷を奪った東日本大震災。記憶の風化が進む中、悲劇を繰り返させないために大きな意義があるのが、震災伝承団体が行った住民への聞き取り調査である。逃げ遅れてしまった人の当時の状況や心理状態は、命を守るためのヒントになる。あの日の避難行動を検証し、次の災害に備えてもらうため、本番組の制作に臨んだ。

シノプシス

東日本大震災で、全国で最も多い約4000人が犠牲になった宮城県石巻市。なぜ、多くの人が逃げ遅れたのか。震災伝承団体が、生き残った住民約100人から当時の避難行動を聞き取り、あの日の動きをCGで再現すると、共通する危険な行動が浮かび上がってきた。震災から13年。大津波を経験した住民の証言から、命を守る避難行動を検証する。

受賞に際して

この度は、このような栄誉ある賞をいただき心より御礼申し上げます。震災を知らない世代が増える中、東日本大震災を「過去の災害」ではなく「いつか自分の地域で起きるかもしれない災害」として捉えてもらいたいと思い、誰もがあの日を想像できる番組を目指しました。

制作したCGのもととなった避難行動の聞き取り調査は、月日が経過したことで気持ちの整理が進み、当時の体験を話せる人が増えたことで結実しました。「次の災害で悲しむ人が出てほしくないから」と、我々の取材にも協力してくれた住民の皆さまに感謝の思いが尽きません。昨年の元日に発生した能登半島地震では、災害が時も場所も選ばないことをまざまざと見せつけられました。我々、被災地のテレビ局は、これからも科学的なアプローチを交えながら、一人でも多くの方が未来に命をつなげるように教訓を伝え続けてまいります。(株式会社 東日本放送 アナウンサー・番組ディレクター 鈴木奏斗)

作品情報: <https://www.youtube.com/watch?v=Iqu9yLrxjYc>

所さんの目がテン！ 折り紙の科学

企画・製作：日本テレビ放送網株式会社

制作協力：株式会社CNインターボイス／チーフプロデューサー：原司（NTV）／プロデューサー：池田潔美（NTV）、大沢克文、草野奈々絵（CNインターボイス）／演出：似鳥利行（NTV）、勝河泰知（CNインターボイス）／取材ディレクター：谷野寧音（CNインターボイス）／構成：内田裕士



羽の折りたたみ方が昆虫の中で最も収納効率がいいハサミムシ TV:24分

製作意図

紙を折るという単純な行為に秘められた機能美や幾何学的構造。その知見を生かした最先端技術を「折り紙」という切り口でやさしく描くことで、視聴者の知的探究心を刺激します。遊びの延長にある科学との出会いを通じて、「未来を形づくる力は、私たちの身近にある」ことを伝える作品です。

シノプシス

折るだけで形を生む「折り紙」が、今や宇宙工学やロボティクス、建築設計など幅広く応用され、工学技術へと進化。本作では、昆虫の羽に学んだ折り畳み構造を活用した太陽電池パネルや、熱と印刷で自動的に立体化する折り紙技術など、折り紙工学の最前線を紹介。伝統文化と自然の仕組み、そして科学との融合で生まれる革新とその可能性に迫る。

受賞に際して

この度は栄えある賞をいただき厚く御礼申し上げます。折り紙というと、子供の遊びにとらえる人が多いですが、『紙を折る』ただそれだけの繰り返し、想像を超える複雑さや機能を生み出し、生き物の羽や人工衛星の展開構造にまで通じるという事実、深い驚きと感動を覚えました。この番組では、折り紙に宿る幾何学的な秩序や、生物が獲得してきた折りたたみの知恵を、科学者たちがいかに見出し、未来の技術に昇華させているのかを追いました。それは決して絵空事ではなく、確かな現実として、私たちの目の前にすでに形をなしはじめています。その実在感を、映像として具体的に捉えることに努めました。伝統や遊びのイメージを覆す折り紙の可能性を、視聴者の皆さんと共有できたことを嬉しく思います。ご協力いただいた研究者の方々、制作スタッフの皆様には感謝しております。（株式会社CNインターボイス ディレクター 勝河泰知）

SBCスペシャル 本田先生のこころ診察室 ～発達障害のこどもたち～

製作：信越放送株式会社

ディレクター：宮川伊都子／撮影：丸山清寿／音声：富岡努・白澤典子
プロデューサー：手塚孝典



本田先生の診察室 TV:60分

製作意図

発達障害は生まれつき脳機能の発達に偏りがあり、家庭・学校・職場などでの日常生活に困難を感じるもので、社会参加の機会を保障するには適切な理解と支援が不可欠とされる。しかし正しい理解が進んでいるとは言い難い。信州大学医学部附属病院で発達障害を専門に診る本田秀夫医師の取り組みと患者の日常を追いながら、発達障害とはを問いかける。

シノプシス

信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部。発達障害を専門に診る本田秀夫先生の診察室には、子どもたちがこころを吐き出しにやってくる。発達特性ゆえに、学校でいじめにあったり、集団生活に馴染めなかったり、希死念慮が出てきたりなど内容は様々。先生の診察や活動を追いながら、発達障害の子どもたちへの接し方、育て方、考え方を探る。

受賞に際して

文部科学大臣賞という栄えある賞をいただき、関係の皆様にも熱く御礼申し上げます。また今回取材を受けていただいた患者の皆さま、本田秀夫先生にも感謝申し上げます。

長野県松本市にある信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部。本田先生の診察は「最近、どうですか？困っていることない？」で始まります。子どもたちは学校で嫌だったことなどを話し続け、先生はその話をずっと聞いている。ここは病院だから、みんな病気なんだろうか？そもそも発達障害ってどういう障害？…と、自分自身が正しく理解していないことに気づきました。最初の1年は、カメラを片手に本田先生の診察室に通い続け、2年目から患者さんにも声をかけて話を聞かせてもらうようになり、3年目で番組にしました。今回は自分自身がわかっていなかった発達障害とは？という基本編という位置づけです。番組が発達障害の子どもへの接し方、育て方、考え方などへのヒントとなれば幸いです。（SBC・信越放送 宮川伊都子）

チャンネル4 終わらないコロナ 後遺症と闘う18歳

企画・製作：株式会社テレビ信州

ディレクター：大和洋介／プロデューサー：久和健一郎／統括：田中健次
ナレーション：玉川砂記子／撮影：野本昌伯／MA：山口誠／音効：松本亜衣



新型コロナ後遺症と闘う山田幸奈さんと家族 TV:45分

製作意図

おとし、新型コロナ後遺症で寝たきりになっている山田幸奈さんを知る。取材を進めると後遺症に苦しむ人が多いことが分かってきた。その症状は、味覚障害や体の痛みなど200種類を超えているという。山田さんのように体が動かなくなる人も少なくない。後遺症患者、医師、研究機関を取材し、コロナ後遺症の現状と課題、研究の最前線を伝える。

シノプシス

山田幸奈さんは3年前、新型コロナ感染直後から全身が動かなくなった。専門医からは「新型コロナ後遺症」の診断を受けた。国の調査ではコロナ感染後1～2割の人が何らかの後遺症を発症。しかし、治療法は見つかっていない。私たちはヒトの『免疫』を研究している京都大学に山田さんの血液検査を依頼。その結果、『免疫の乱れ』が確認された。

受賞に際して

山田幸奈さんに会うまで、新型コロナの後遺症について詳しく知りませんでした。後遺症で特に多い症状が“倦怠感”や“気分の落ち込み”で、周りからは「怠けている」「気の持ちよう」などと言われ、理解されないケースが多いといえます。山田さんは「こうした現状を変えたい」「後遺症への理解ある世の中になってほしい」と願い、実名・顔を出しての取材に応えることを決断してくれました。

新型コロナ感染症が2類から5類に移行して2年が過ぎました。新型コロナはもう過ぎ去ったかのように一気に警戒感が薄れていますが、感染の波は今も続いています。新型コロナ後遺症の専門医は、「後遺症のリスクは誰にもある」と話します。今も後遺症と闘っている患者への支援、そして1日も早く治療法が見つかることを願い、今後も取材を続けていきます。

この度は、栄えある賞をいただき、心より御礼申し上げます。

(株式会社テレビ信州 ディレクター 大和洋介)

NHKスペシャル ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国

製作：日本放送協会

製作（制作統括）：岩崎弘倫、薦田昌純／演出（ディレクター）：松村紀生
撮影：加倉井和希、長谷川翔平、高村幸平／研究者：岩田雅光、ケリー・シンク



岩陰から現れたシーラカンス 大きさはゆうに1 mを越える TV:59分

製作意図

ダイオウイカを初撮影したNHK深海取材班が、古代魚の謎に挑む。およそ4億年前、脊椎動物が海から陸へ上陸を遂げる過程にいた特別な魚として重要な意味をもつシーラカンス。絶滅を逃れ、なぜ深海で生き残ったのか？ヒレから手足を獲得し、私たちヒトにまでつながる進化の謎に新開発の8K超高感度カメラで迫る冒険ドキュメント。

シノプシス

インドネシア・スラウェシ島沖。アクアマリンふくしまをはじめ世界の研究者とともに深海調査船に乗り込み、世界初の「72時間追跡作戦」を敢行。昼夜をわかつた徹夜で密着・観察し続け、ついに絶壁の隙間に集まる群れを発見。特殊なヒレの動きや繁殖や捕食の解明につながると思われる未知の行動を次々と発見。古代魚の知られざる姿を描く。

受賞に際して

「深海に潜ってシーラカンスを見つけ出し、生命進化の謎を解き明かす」壮大な目標にむけてプロジェクトが始まりましたが、本当にそんな夢が叶えられるのか、誰も自信はありませんでした。コロナ禍による度重なる調査延期や続出するトラブル。それでも科学者の岩田雅光さんを先頭に、諦めず、粘り強く交渉と準備を続けました。深海で高精度・高感度で撮影するために8K深海カメラシステムを開発。満を持してインドネシアの海に潜りましたが、相手は生きもの、必ず見つかるとは限りません。全員が目を皿のようにして、暗闇の奥に潜むであろう古代魚を探します。チームの執念が実り、シーラカンスは私たちの前に現れ、これまで誰も見たことがない生態を次々と見せてくれました。前代未聞の困難なプロジェクトにお力添えいただきました全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。（松村紀生）

フロンティア 「ヒトはなぜ歌うのか」

製作：日本放送協会

製作(制作統括)：白川裕之／演出(ディレクター)：小泉世里子／撮影：渡邊雅己／
研究者：ヘンキャン・ホーニング(アムステルダム大学)、サイキ・ルイ(ノースイースタン大学)、矢野原佑史(京都大学) 他



歌うバカ族の女性たち TV:59分

製作意図

ダーウィンは言った「音楽は生きるのに直接の役には立たない」。では、なぜヒトは歌うのか？認知症になっても消えない「音楽記憶」の謎。ヒトと音楽はなぜそれほどまでに密接な関係にあるのか。そして音楽の起源とは？この壮大な謎解きに、最先端の脳科学、音楽人類学など多面的なアプローチで迫っていく。

シノプシス

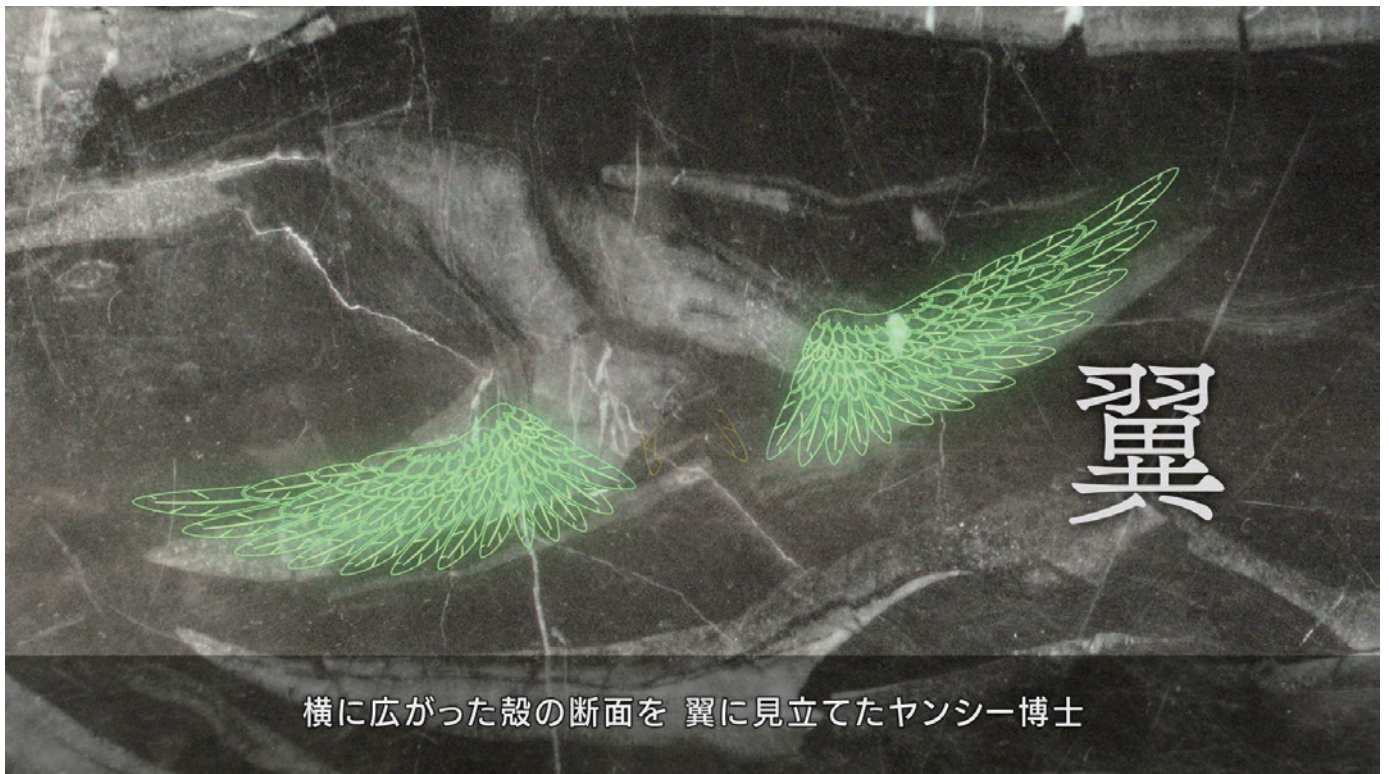
認知症で自分の名前すら忘れてしまっても、なぜか「音楽記憶」だけは消えない不思議。その謎を解く鍵を求めて、アフリカ熱帯雨林の狩猟採集民・バカ族のもとに。見えてきたのは太古の昔に獲得した私たちの脳と音楽の密接な関係。そして音楽が脳にもたらす驚きのパワーとは？世界各国の科学者と共に、ヒトと音楽を巡る壮大な謎解きに挑む。

受賞に際して

ヒトはなぜ歌うのか？実はこれダーウィンを始め、知の巨人たちが議論し続けてきた謎なんです。この壮大な謎解きに参加したのは認知症を患う方たち、アフリカの熱帯雨林に住む狩猟民バカ族の皆さん、そして人間と音楽の関わりを探究する脳科学者、人類学者など。その誰もが、それぞれの人生で、その人なりの「音楽にまつわるエピソード」を持っている事にあらためて感動しました。いったい私たちにとって音楽とは何なのか…。バカ族が歌うポリフォニーを複数のマイクでマルチ録音分析したり、音楽が脳にもたらす効果を脳画像解析するなど、テクノロジーを使った分析が今回の謎解きにも多いに貢献してくれました。取材した熱帯雨林でも伐採が進み、森を出るバカ族も増えていきます。バカ族の女性がいった「私たちは狩りのために歌う。森と動物の心を柔らかくするために。だから森がなくなったら歌わない。」という言葉が心に残っています。(ディレクター 小泉世里子)

シカマイアの翼 ペルム紀 謎の化石を追え

企画：福井県立恐竜博物館、製作：株式会社 F B C アドサービス
構想企画・構成・監修：安里開士（福井県立恐竜博物館）／製作：天谷満夫（株式会社 F B C アドサービス）／演出・脚本：高島千枝（株式会社セブンディ）／撮影：山内明（株式会社 F B C アドサービス）



謎の化石、シカマイアの断面 動画：18分

製作意図

世界には未だ、正体不明の「謎の化石」が存在しており、日本から発見された「シカマイア」も、その一つであった。国内外の研究者が、シカマイアの謎に挑み解明していく過程を通じて、日本のマニアックな化石と、自然科学の研究の世界に興味をもってほしい—映像に込めた思いが少しでも視聴者に伝わったならば、製作者兼研究者としてこの上ない喜びである。

シノプシス

1968年、日本のペルム紀（約2億7000万年前）の地層から正体不明の化石が発見された。シカマイアと命名されたこの化石は、様々な研究者によって少しずつ明らかになっていく。いかにしてシカマイアは解明されたのか。特に重要な転換点となった5つの研究に焦点を当て、当時の研究者の葛藤などを再現した舞台調VTRを軸に、シカマイアの正体に迫る。

受賞に際して

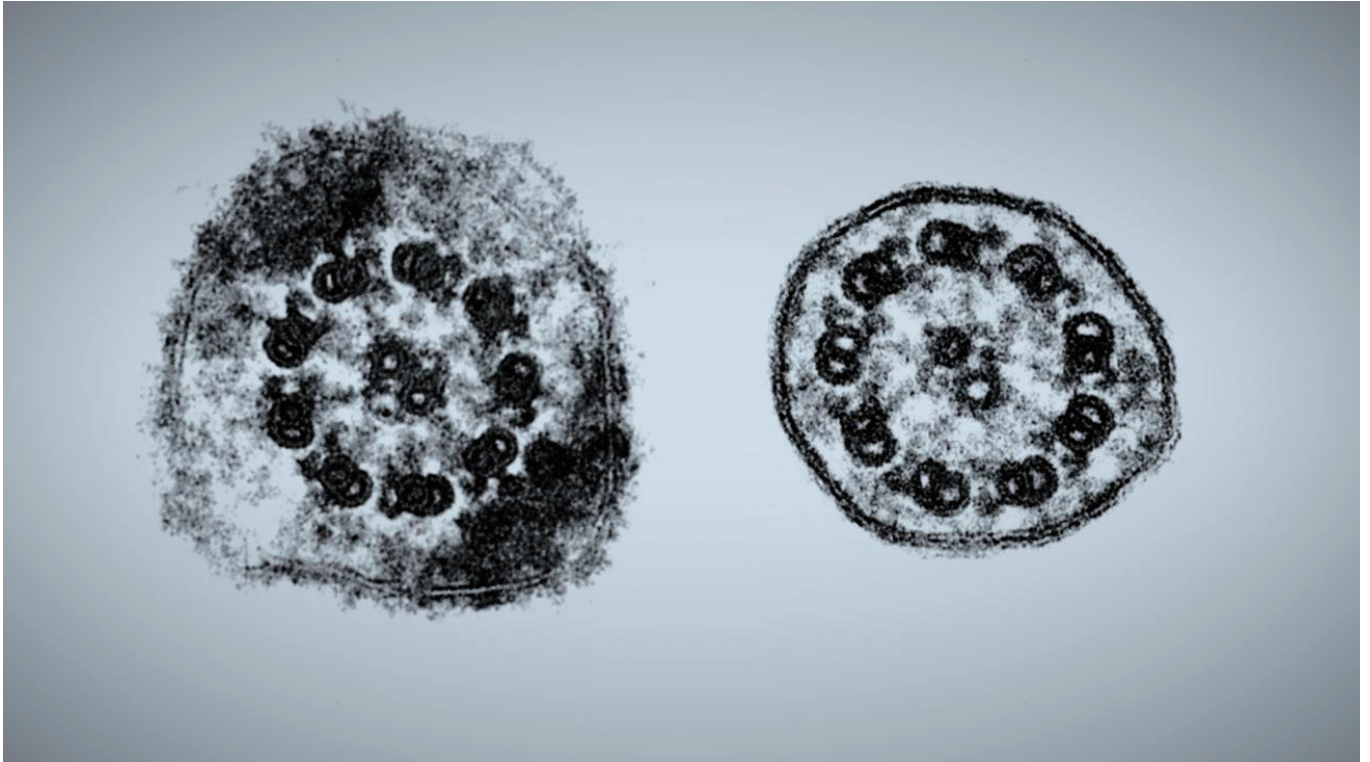
「シカマイア」という言葉を聞いたことがある人は、果たしてどのくらいいるのでしょうか。いわゆる、知る人ぞ知る化石であるシカマイアですが、日本で発見された、巨大で謎多き化石という、一般的にも目を引きそうな存在だと研究をはじめたころから感じておりました。また、国内外の研究者が試行錯誤しながらシカマイアの解明に挑んでいく様は、自然科学の魅力そのものであるとも痛感しておりました。日本が誇るマニアックで魅力的なシカマイアを通じて、その認知度を上げつつ、自然科学の醍醐味を伝えられるような映像が出来ないか—この映像は、シカマイアに挑んでいた学生のころから夢見てきた、研究普及に関する挑戦を形にしたものです。この度の栄誉ある賞をいただいたことで、“翼の貝”といわれるシカマイアが広く皆様のもとに“羽ばたく”ことが出来たと実感するとともに、厚く御礼申し上げます。（福井県立恐竜博物館・安里開士）

ガリレオX 精子9+2のミステリー 私たちの精子に秘められたミステリー

企画・製作：ワック株式会社

プロデューサー：太田 洋昭／

ディレクター：森口 郷志／アシスタントディレクター：新井 匠



左：精子の9+2構造、右：気管細胞の9+2構造 TV:26分

製作意図

世界で初めて精子の「9+2構造」に特化した番組。精子の運動を支える9+2構造は、実は私達の脳や気管にも共通する重要な仕組み。番組ではこの謎の構造に迫り、生命進化との深いつながりを解りやすく描く

シノプシス

私たちの命の起源「精子」。その運動を支える「9+2構造」は、多くの生命にとって重要な役割を果たす。筑波大学下田臨海実験センターの研究をもとに、その構造に秘められた謎に迫る。

受賞に際して

このたびは栄えある賞をいただき、誠に光栄に存じます。本作は、精子の「9+2構造」という一見専門的で難解なテーマに挑みながらも、生命の神秘と繋がりをわかりやすく伝えることを目指しました。取材にご協力いただいた筑波大学下田臨海実験センターの皆様、映像表現に携わってくださったスタッフの尽力があってこそ、こうした評価につながったと深く感謝しております。この番組を通して、身近でありながら意外と知られていない生命の摩訶不思議な世界に、多くの方々が関心を寄せてくだされば幸いです。

(ディレクター 森口 郷志)

宇宙の電波を受けたりする PART2 並ぶパラボラの謎

企画・製作：自然科学研究機構 国立天文台

ナレーター：大久保利洋（株式会社アーツビジョン）／撮影：三上真世、伊藤博則
MA：伊藤結衣（株式会社スタジオアーム）／監修：西村淳（野辺山宇宙電波観測所所長）／脚本・演出：塩谷保久



並び立つアンテナの驚くべき能力とは？ 動画:15分

製作意図

電波望遠鏡は、その形と大きさから多くの人に興味を持ったり、記憶に刻まれたりする観測装置のひとつです。しかしその仕組みや構造は、なかなか知られることがありません。本動画では、そんな電波望遠鏡の仕組みに迫りました。

シノプシス

国立天文台野辺山には、ずらりと並んだ直径10mの電波望遠鏡群がある。これらは電波干渉計といって、45m電波望遠鏡を超える性能がある。電波干渉計を使うと、より高い解像度を得ることができるのだ。しかしそんなすごいものが、なぜもう使われていないのか？その仕組みはどうなっているのか？望遠鏡の謎に迫る！

受賞に際して

長野県野辺山には、宇宙からの電波観測を行う電波天文台があります。劇場版『名探偵コナン 雫の残像』の舞台となったこともあり、訪れる方はその壮大な景色を記憶に刻むことでしょう。でも電波望遠鏡の仕組みとなると、なかなか難解です。とくに何台もの比較的小さなパラボラを組み合わせる「電波干渉計」の仕組みは数学的で、直感では理解し難いものです。国立天文台としては、ぜひその仕組みについても知ってもらいたく、この動画がその一助になればと考えました。振り返れば、国立天文台内に映像チームが発足し、本格的に稼働し始めてから十年余り。主にSNSでの情報発信を目的に始めた映像制作でしたが、第63回科学技術映像祭・科学技術館館長賞に続き、今回2度目の栄えある賞をいただき、たいへん驚き、感激しております。関係者一同心より御礼申し上げます。（国立天文台天文情報センター広報室 映像ディレクター 塩谷保久）

映像25「私らしく」 初のアルツハイマー治療薬と共に

製作：MBS毎日放送

ディレクター：金咲和歌子／撮影：亀井誠悟／編集：新島愛生
プロデューサー 橋本佐与子



若年性認知症でレカネマブ投与を続けている関田美香さん TV:50分

製作意図

2023年、世界で初めて承認されたアルツハイマー病の治療薬「レカネマブ」(商品名:レケンビ)。病気の原因物質を除去する作用があり、進行を遅らせることができると期待されている。認知症や軽度認知障害の原因の多くはアルツハイマー病だ。完治はできなくとも、「今のままで」生きられる時間を長くしたいと患者や家族は希望を託す。

シノプシス

大阪市内に住む関田美香さん(60)は4年前に若年性アルツハイマー型認知症と診断された。一人暮らしを続けているが、少しずつ病気は進行。去年から「レカネマブ」の投与を受けている。一方で、レカネマブの投与を選択せず対症療法で過ごす患者もいる。世界初のアルツハイマー病治療薬の意義とは。投与から1年、美香さんに密着した。

受賞に際して

この度はこのような栄えある賞をいただき大変光栄です。若年性アルツハイマー病の関田美香さんは、突発的に記憶が飛ぶ記憶障害に加え、空間等を認識しにくい視覚障害があります。道に迷ったり、ごま油の瓶がお茶のボトルに見えてしまったり…過酷な状況ですが一人暮らしを決して諦めません。「自分らしく」生きるために、レカネマブ治療を受けています。認知症や軽度認知障害の原因の多くはアルツハイマー病です。認知症患者(軽度認知障害含む)は日本国内で1000万人を超えました。こうした状況下で、レカネマブが登場したことは認知症医療に大きな光明をもたらしました。一方で、その効果について疑問を呈す研究者がいるのも事実です。レカネマブにつづく新薬の開発は、この病気と闘う患者と家族の「生きがいのなる」と、今回の取材を通じて実感しました。取材に際してお世話になった全ての方にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。(ディレクター金咲和歌子)

サステナドームの秘密 コンクリートの未来を救う

企画・製作：株式会社Kプロビジョン 委託：鹿島建設株式会社

ナレーション：朝陽 聖梨香（株式会社シグマ・セブン）

CG：カムガード・ワチャレイントーン、カムパン・マナット、宮嶋トゥフオン（株式会社STEQQI）

企画・製作・脚本・演出：中嶋 望、板橋昌二、中根 愛（株式会社Kプロビジョン）



コンクリートの中で起きている化学反応 動画:5分29秒

製作意図

大阪・関西万博会場に、鹿島建設が「サステナドーム」(ジュニアSDGsキャンプ)を建設。サステナドームは、子供たちがSDGsや脱炭素について学ぶ場となっており、ドームそのものが大気中のCO2を減少させる画期的なコンクリート「CO2-SUICOM」を基につくられている。この「CO2-SUICOM」が持つCO2を減らす秘密をわかりやすく子供たちに伝えるために制作した。

シノプシス

私たちの身の回りに多くある固いコンクリート。このコンクリートはどうして固まるか？という疑問を、材料までさかのぼり逆再生方式で解説。加えて、コンクリートの材料の一部を特殊な材料に変えることで、大気中のCO2を減らすカーボンネガティブコンクリート「CO2-SUICOM」になる理由を分子レベルのCGアニメーションを用いて解説した。

受賞に際して

「脱炭素・活性炭」という世界的な環境課題に対し、様々な分野から解答が投げかけられている昨今。建設分野からの一つの解答である「CO2-SUICOM」という技術。この技術の特異性・優位性をひとりでも多くの子供たちに伝えられる機会を、大阪・関西万博という大舞台でいただきました。当たり前にあるものをいつもと違う視点で見てみる、いつもより深くのぞき込んでみる、そんな「科学技術」の面白さを、CGアニメーションを用いて表現できたのではないかと思います。文字だけでは、静止画だけでは、なかなか納得することが難しいことも、映像にすることで理解促進に寄与できるということを体現できたと思います。最後になりますが、このような機会を提供していただいた鹿島建設、そして制作に携わったすべてのスタッフの皆さまに心より御礼申し上げます。（株式会社Kプロビジョン 中根 愛）

割れた藍瓶 能登半島地震と富山湾

製作：北日本放送株式会社

ナレーション：武道優美子／撮影：中曽翔太、羽柴泉、高嶋大介、平島健一／音声：山本久美子／CG：宮谷有紀子／音効：半澤知宏／MA：辻村直純／編集：安部幸雄／構成：日笠昭彦／取材：岡川春樹／制作統括：坂田奈津美



富山湾のベニズワイガニ漁 TV:46分

製作意図

天然のいけす富山湾。地元では藍瓶(あいがめ)とも呼ばれ、豊かな漁場を育んできた。しかし、2024年元日の能登半島地震で異変が起きた。ブリは豊漁だった一方、ベニズワイガニやシロエビは不漁が続き、漁師からは落胆の声が聞かれた。

藍瓶で何が起きているのか。様々な証言、研究をもとに紐解き、海底の未知なる脅威への備えにつながればと願う。

シノプシス

富山湾は、能登半島地震によって一変した。ベニズワイガニ漁は大幅に落ち込んだ。漁師たちは、流されたカニかごを修理し漁を再開したが、漁獲量は元には戻っていない。専門家は、不漁の原因は地震による「海底地滑り」と指摘。水中ドローン調査では、海底地滑りで割れた岩盤の現場を撮影した。さらに、海底地滑りは海の水質をも変えていた。

受賞に際して

地震発生直後から続く記録的不漁は、2年目の今年もまだ元には戻っていません。不漁がいつまで続くのか、なにか対策を講じることはできないのか、もどかしい日々が続いています。漁師はもちろん、富山県民にとっても、大切な財産を失いかねない重要な課題だと認識し、今回、番組を制作しました。能登半島地震による海の被害は、これまであまり伝えられてきませんでした。今回の受賞は、陸地だけでなく海も忘れてはいけないという、温かいメッセージをいただいたようでした。お礼申し上げます。能登半島地震後、日本海側の海底活断層の調査が加速し、新たな脅威も少しずつ明らかになってきました。そしてようやく不漁の原因を解明すべく、富山湾の大規模な調査も進み出しています。未知の多い富山湾の脅威と恵みを、地元放送局として今後も継続的に取材し、向き合っていきたいと思います。

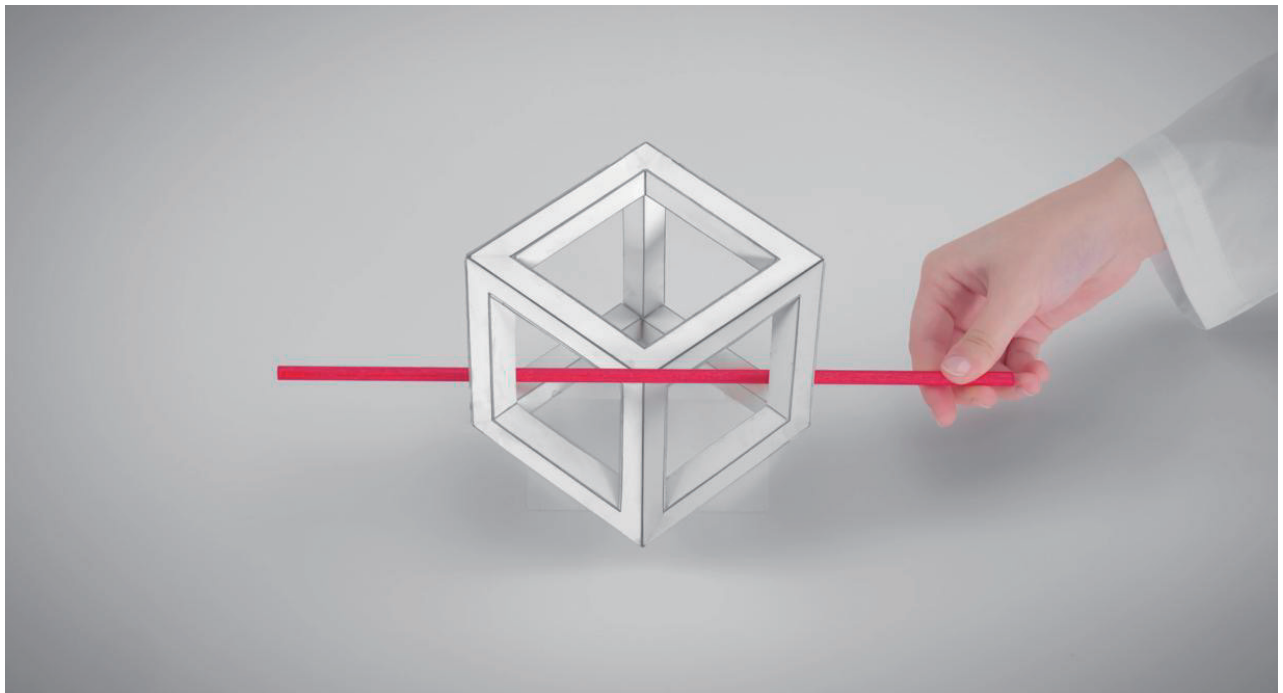
(北日本放送株式会社 制作統括 坂田奈津美)

水無瀬イノベーションセンター イントロダクションムービー Impossible Object

企画・制作：株式会社DNPコミュニケーションデザイン

委託機関：積水化学工業株式会社

プロデューサー：多賀丈太／プロダクションマネージャー：土方博一／ディレクター：向井 健
／アシスタントディレクター：新屋敷達磨、草野 椿／撮影：越智光彦／照明：笠原健司／
装飾：武士 裕／監修：杉原厚吉



動画:1分45秒

製作意図

“ありえないことが起こる”「錯視立体表現」をモチーフに、「不可能に思えることも、発想力で実現できる」という思いを表現。同社と来館者とのオープンイノベーションのマインド共有、及び同社の研究・開発姿勢への共感につながることを目指した。説明的表現を排し、不思議な世界観の表現により視聴者の心に刺さるショートムービーに仕立てた。

シノプシス

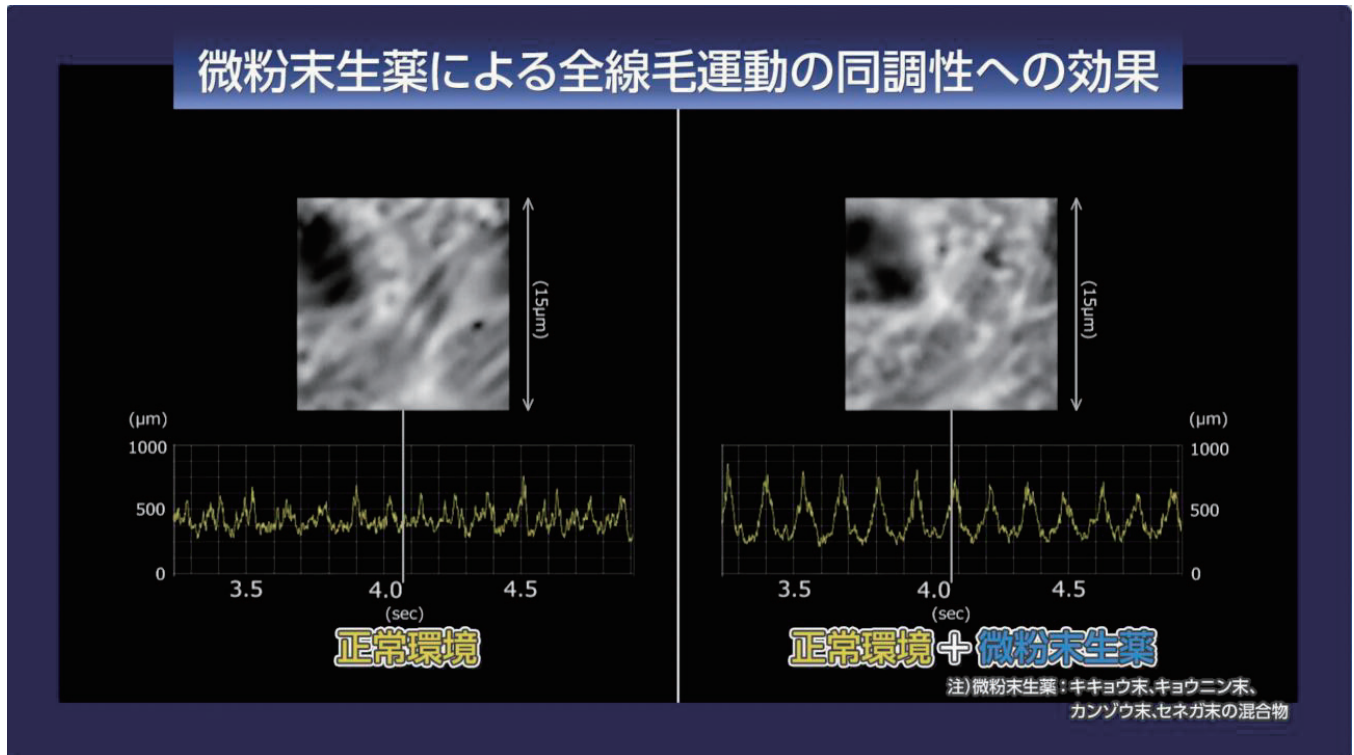
当たり前のはずの物理法則を無視した動きに、あなたは驚きそして気付かされる。物の見方が変わるとき、きっとその瞬間にイノベーションは生まれる。

受賞に際して

この度栄誉ある賞に選定いただき大変ありがたく思っております。この映像は「短い時間の中で強い印象」を与えることを最大の目的としていたため、積水化学工業(株)様の水無瀬イノベーションセンターに来場された方はもちろん、選定委員の方々に対してもその効果を発揮できたことについて大きな喜びを感じています。本映像きっかけで積水化学工業様の価値向上に寄与できていることにやりがいを感じているとともに、映像制作に携わるものとして、改めて気が引き締まる思いです。今回ご評価いただいたことを励みに、今後も様々なコミュニケーションの一助となるコンテンツの設計ならびにクリエイティブに尽力していきたいです。
(株DNPコミュニケーションデザイン 多賀丈太)

気道を守る ～線毛細胞 微粉末生薬の知られざる働き～

製作：ヨネ・プロダクション、企画・委託機関 株式会社龍角散
 監修：立命館大学 総合科学技術研究機構 中張 隆司、丸中 良典／脚本・演出：浅香修／撮影：合木茂、藤枝愛優美／実験指導：浅香時夫／実験：森岡加奈子、萩原加奈／解析：山本侑奈／音楽：藤井隆太／ナレーター：窪田等／製作：藤枝愛優美



線毛細胞の同調性を促進することが予想される比較映像 動画:15分

製作意図

世界中に猛威を振るった新型コロナウイルス感染が示すように、呼吸器(気道、肺)は、絶えず吸入病原体に曝されている。しかし、気道表面には防御機構として線毛運動による吸入病原体排出機構が存在している。本作品の意図は、顕微鏡映像を通じ、この機構を駆動している気道線毛の働きと、線毛運動活性化による気道異物排出を促進する微粉末生薬(龍角散)の働きを示すことにある。

シノプシス

ヒトの気管線毛は吸入された異物から身体を守る重要な役割を担っている。本作品は線毛運動のハイスピード撮影による画像解析、及びビーズを用いた線毛の異物排出スピードの解析実験を元に、円滑な粘液線毛輸送を実現させる龍角散生薬の有効性をリアルで精緻な顕微鏡映像を通して検証し、龍角散生薬の線毛運動活性化効果を明らかにしていく。

受賞に際して

このような素晴らしい賞をいただけたことを、心より嬉しく思っております。今回の受賞は株式会社龍角散様や皆様のご支援があつてのことと深く感謝しております。特に、立命館大学 総合科学技術研究機構 中張 隆司先生、丸中 良典先生には、多大なご指導と、たくさんの貴重なご示唆をいただきました。作品の制作にあたっては、気管上皮細胞から気管線毛細胞に分化させるまでの細胞培養期間に約2ヶ月を要し、さらに撮影では微細な線毛の高速運動を捉えるために、撮影条件や画像解析など通常の顕微鏡映像にはない苦労がありました。今回の作品では私たちの気管の線毛機能が伝われば望外の喜びです。

(株式会社 ヨネ・プロダクション)

私を守るのはわたし ～オーバードーズの危険～

企画・製作：梶山女学園大学

ディレクター：徳毛琴音、成田音和／撮影：小嶋莉世、佐々木菜摘、林優津希／A D・制作補助：石川莉彩、須浪文夏、古田有希、水野日南子、山本佳朋



取材・撮影する学生たち インターネット等で配信されている動画 動画: 17分

製作意図

いま若い世代の間で市販薬を過剰に摂取する「オーバードーズ」(OD)が急激に増加し、大きな社会問題になっています。そこで大学ゼミがOD経験者や専門家への取材を進め、薬物過剰摂取の危険性や問題点を探りました。企画意図はODの危険性をネット映像で広く訴え、オーバードーズ防止につなげること。OD経験者への取材を軸に映像を構成しました。

シノプシス

オーバードーズ経験者に話を伺った。A子さん、22歳。違法な薬物にも手を出したことで、18歳のとき警察に逮捕され、少年院に入った。そして更生プログラムを2年間受け、立ち直った。私たちは取材を通して、ODが体にとっても危険なこと、一回だけの軽い気持ちで、将来にわたって苦しみ続ける怖さを知った。私を守るのは「わたし」だけです。

受賞に際して

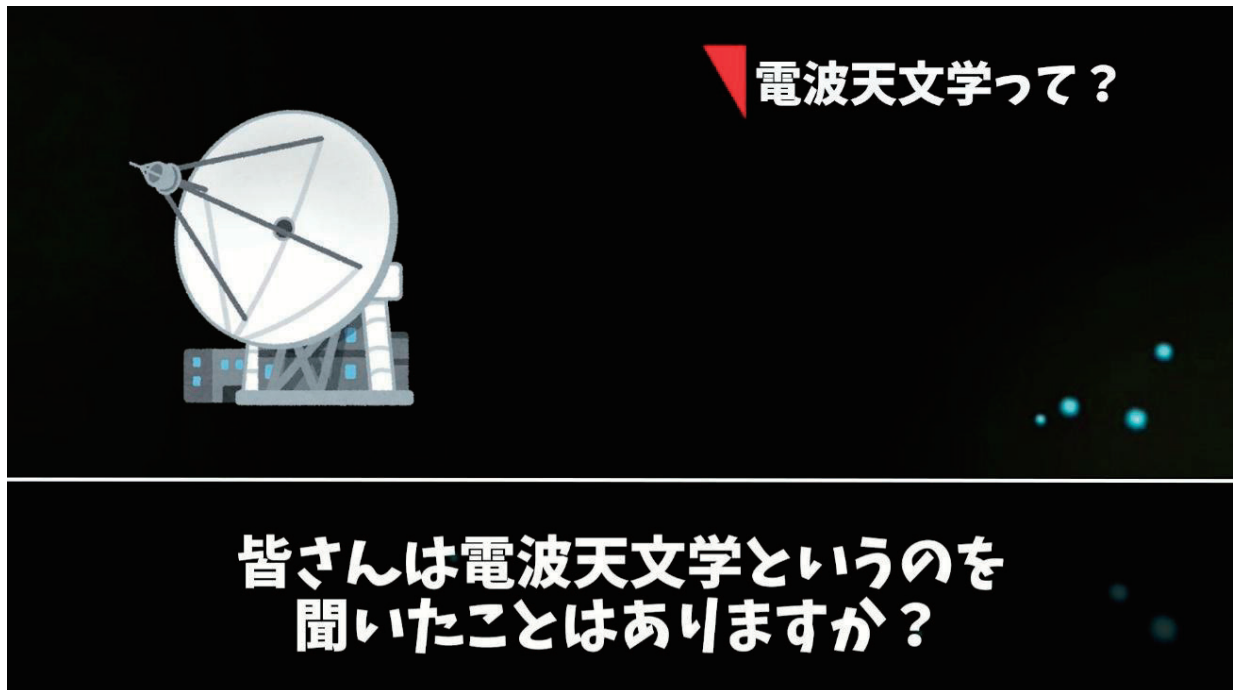
この作品の制作は、大学ゼミに来た1人の女性がかっけでした。青少年の健全育成を願う地元警察署・少年係の警察官です。急増しているオーバードーズ防止を呼び掛ける啓発映像を私たち学生に制作してほしい、という依頼でした。そこでゼミで協力して啓発映像(長さ6分)を制作しましたが、それでは短くて伝えられないことが多くありました。そこで追加取材し再構成して、長さ17分のこのドキュメンタリーを制作しました。オーバードーズから立ち直った経験者A子さんは、私たちの取材に「薬は底を見ないと抜け出せない」と語り、ODの怖さを訴えています。この映像を大勢の人に見てもらい、オーバードーズ防止に貢献できれば嬉しいです。

(梶山女学園大学栃窪ゼミ 成田音和・徳毛琴音)

電波天文学って？

製作：東京都立科学技術高等学校

企画・製作・脚本：森悠斗／ナレーター：森悠斗／研究者：森悠斗、芹澤聡一郎、丸田凌志郎、柴田春音／アドバイス：金子雅彦／映像提供可視化：武田隆顕／シミュレーション：馬場淳一、斎藤貴之 国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト



われわれが日々観測している天の川銀河の中性水素21cm線を観測してダークマターの質量を求めるとい研究の概要を紹介します。 動画: 3分27秒

製作意図

私は高校で仲間と自作電波望遠鏡を用いて銀河系の回転速度からダークマターの質量を求める研究を行っています。銀河の回転速度は銀河の成り立ちに関わる重要な問題で有ることを知った日の夜は眠れない程興奮しました。多くの人に銀河の回転速度とダークマターのことを知っていただき、私たちの感動や興奮を共感して欲しいと考えて制作しました。

シノプシス

“電波天文学”という言葉を知っていてもその観測やデータ分析について知らない方も多くいます。銀河の回転速度を測定することによって、直接観測できない未知の質量(ダークマター)があると考えられています。この映像では電波天文学に詳しくない方にも興味を持ってもらえるように、私たちが行っている観測や分析についてまとめました。

受賞に際して

電波天文学をいろいろな方に知ってほしいと思いこの映像を制作しましたが、けっして簡単な道のりではありませんでした。「自分の研究を分かりやすく動画にするにはどうすればいいか？どうしたら電波天文学やダークマターのことを知らない人に興味をもってもらえるか？」と何度も悩みました。長時間の動画にする予定でしたが、それでは「見ている方があきってしまうかもしれない」と考え、3分程度の動画にすることにしました。そのため電波天文学の情報を最小限にしぼり、表面を撫でた程度の作品となってしまったかもしれません。ですがこの映像を視たどなたかが電波天文学やダークマターに興味を持ってくれたら嬉しく思います。このような賞を頂戴して、恐縮しつつとてもうれしく感じます。最後に制作にかかわった方々、背景の動画を提供していただいた国立天文台の方々及び視聴者の皆様に心より御礼申し上げます。(東京都立科学技術高等学校 森悠斗)

ガリレオX キメラ異質同体生物が救う命

企画・製作：ワック株式会社

ディレクター：岩木達哉／プロデューサー：太田洋昭／

撮影：小池武、岩木達哉／研究者：正木英樹、神里彩子、磯谷綾子



ラットとマウスのキメラ(胎仔) TV:26分

製作意図

「動物に、ヒトの臓器をつくらせる」人によっては忌避感を禁じ得ず、また別の人にとっては待望の技術であろうこの幹細胞研究の現在地点を広く伝え、ヒトと動物のキメラとはどんなものなのか、そして私たちはこの新たな技術を受け入れる準備ができているのかを問うために制作した。

シノプシス

世界中の伝承やSF作品に登場するキメラ。一つの体に異なる遺伝情報をもつこの【異質同体生物】を、人間の科学技術は現実のものとした。そして今、ヒトの臓器を体内に宿す動物が誕生しようとしている。長年にわたる移植用の臓器不足を解決しうるキメラ。この技術が私たちに何をもたらすか？そしてどう向き合うべきか？研究の最前線に迫る。

受賞に際して

「ヒトと動物のキメラによるヒト臓器の作成技術は、これからの社会にとって本当に必要なのか」これには人それぞれの考えがあり、正しい答えはどこにも存在していません。現在の日本社会に必要不可欠である体外受精の技術も、社会問題としてその是非を巡る議論を経て認められたように、新しい科学技術にまつわる人々の倫理観は無関心・無理解のままでは決してアップデートされません。今まさに生み出されようという科学技術が社会にもたらす恩恵と倫理の摩擦を、ひとりひとりが当事者目線で考え、社会全体を巻き込んだ議論が欠かせないことを取材を通して実感しました。この度はこのような栄えある賞をいただき、厚く御礼申し上げます。

(ワック株式会社 ディレクター 岩木 達哉)

これからヒーロー！ #2 体の中に病院を作っちゃう？！の巻

企画・制作：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

総務部広報課 神宮里江、村山愛理、関本一樹、腰高直樹

研究者：西山伸宏（東京科学大学 総合研究院 化学生命科学研究所 教授）／アドバイザー：
村松秀（近畿大学 総合社会学部 教授）、早岡英介（羽衣国際大学 現代社会学部 教授）



猫田の脳の入り口を守る門番とナノマシンの攻防 動画:9分58秒

製作意図

「これからヒーロー！」は、進路選択前の中高生に向けた動画シリーズ。研究の面白さや重要性、研究者の熱量を伝えることで、彼らに研究の魅力を感じてもらい、理系や研究の道に進みたいと思ってもらうことを目指している。クセのある見た目の粘土キャラクターを用いて「科学っぽさ」を抑えることで、科学に興味の薄い層を取り込むことも狙う。

シノプシス

頭が痛い猫田のもとに現れたのは「ナノマシン」という薬。ただ、見た目はかご屋のご一行。スゴ腕の分子たちが、かごの中の薬姫を患部まで確実に届ける治療の旅をするらしい。将来は、病気を発見・診断する分子も加わり、病院のようになるそう。疑う猫田に治療パワーを証明するため、ナノマシンは猫田の体に入り込み、頭痛を治す旅に出る。

受賞に際して

「これからヒーロー！」は、JST職員が企画・制作を行うシリーズです。日本の科学研究力の向上に不可欠な次世代の人材育成に貢献すべく、進路選択前の中高生を対象に制作していますが、当初、職員の限られた技術力で、中高生の目に留まり、楽しんでもらえる動画を作るにはどうしたらよいか大変悩みました。その結果たどり着いたのが、クセの強い粘土が、笑いを交えて科学を伝える表現でした。今でも悩みながら進んでいます。今回このような栄えある賞をいただけたことは、私たちにとって、とても大きな力になりました。心より感謝申し上げます。科学は純粋に面白く、ワクワクさせられ、研究者の営みには心打たれます。その魅力を学生の皆さんにお伝えすべく、これからも努力して参りたいと思います。また、本動画の独特な表現を大きな心で受けとめ、快くご協力くださった東京科学大学の西山伸宏先生に深く感謝申し上げます。

（科学技術振興機構 総務部広報課）

作品情報: https://www.jst.go.jp/program/kencolle/movie/series_1/02.html

第66回科学技術映像祭 参加作品一覧

No.	種別	題名	副題	上映時間	出品機関・製作機関	企画・委託機関 学校名
一般部門 短編（5本）						
1	博物館やイベント等における展示映像	水無瀬イノベーションセンター イントロダクションムービー	Impossible Object	1分45秒	(株)DNPコミュニケーションデザイン	
2	博物館やイベント等における展示映像	「DO the XR」		2分30秒	株式会社TYO	
3	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	Family Protocol	Lights Out / Legacy / Connect	10分00秒	株式会社CoinPost	
4	博物館やイベント等における展示映像	サステナドームの秘密	コンクリートの未来を救う	5分29秒	株式会社Kプロビジョン	
5	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	これからヒーロー！#2 体の中に病院を作っちゃう？！の巻		9分58秒	国立研究開発法人科学技術振興機構	
一般部門 長編（35本）						
6	TV番組	精子9+2のミステリー	私たちの精子に秘められたミステリー	26分20秒	ワック株式会社	
7	博物館やイベント等における展示映像	感染症研究150年	研究の夜明けから今そして 未来時代を紡ぐ	23分55秒	株式会社タイムラプスビジョン	公益財団法人 野口英世記念会
8	TV番組	NHKスペシャル ディープオーシャン	幻のシーラカンス王国	59分	NHKエンタープライズ	日本放送協会
9	TV番組	フロンティア「ヒトはなぜ歌うのか」		59分	NHKグローバルメディアサービス	日本放送協会
10	TV番組	NHKスペシャル 「秘境プータン 天空を駆ける」		49分	日本放送協会	
11	TV番組	メ〜テレドキュメント 救いの時差～ある小児がん医師の呻吟～		50分	名古屋テレビ放送株式会社	
12	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	なぜ火星よりも地球に近い金星を探索しないのか？		24分16秒	株式会社バレック	
13	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	【絶望】私たちは決して太陽系を離れることができません。		21分06秒	株式会社バレック	
14	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	木星は「失敗した恒星」なのか？本当に 恒星になったらどうなるのか？		18分54秒	株式会社バレック	
15	TV番組	映像25「私らしく」	初のアルツハイマー治療薬と共に	50分	MBS毎日放送	
16	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	輪島の記憶を遺す	3Dで知る能登半島地震	18分06秒	日本テレビ放送網株式会社	
17	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	宇宙の電波を受けたりする PART1	45m電波望遠鏡の謎	12分23秒	大学共同利用法人 自然科学研究機構 国立天文台	

18	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	宇宙の電波を受けたりする PART2	並ぶバラボラの謎	14分49秒	大学共同利用法人 自然科学研究機構 国立天文台	
19	TV番組	ガリレオX	キメラ 異質同体生物が救う命	26分27秒	ワック株式会社	
20	TV番組	希望の花 咲く日まで	～脳挫傷から始まる新たな夢～	53分	青森朝日放送株式会社	青森朝日放送株式会社
21	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	おれを印刷している工場へ潜入！ お金の秘密に迫る！		31分04秒	株式会社GENKI LABO	
22	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	10分で自作した太陽電池の性能が凄すぎた！		16分06秒	株式会社GENKI LABO	
23	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	地球で最も無敵生物『納豆菌』は液体窒素や真空にしても死なないのか？！ 実験した結果ヤバすぎた…		11分07秒	株式会社GENKI LABO	
24	TV番組	SBCスペシャル	本田先生の診察室～発達障害の子どもたち～	60分	信越放送株式会社	
25	TV番組	テレメンタリー2024 “3. 11”を忘れない93 100人の証言 命をつなぐ津波避難		28分	株式会社 東日本放送	
26	TV番組	割れた藍瓶	能登半島地震と富山湾	46分	北日本放送株式会社	
27	TV番組	熊本から世界初の新薬を	～熊大発ベンチャーの挑戦～	36分	熊本朝日放送株式会社	
28	TV番組	所さんの目がテン！	折り紙の科学	24分	日本テレビ放送網株式会社	
29	TV番組	ガリレオX ブレイン・マシン・インターフェース最前線	脳を読み取り機械を動かす最新テクノロジー	24分27秒	ワック株式会社	
30	TV番組	「チャンネル4 終わらないコロナ 後遺症と闘う18歳」		44分30秒	株式会社テレビ信州	
31	映画・ビデオ	身近に起きる浸水被害	家庭でできる水害対策	23分	株式会社映学社	
32	映画・ビデオ	能登半島の地震 震度7	広い範囲で起こった強い揺れ	23分	株式会社映学社	
33	映画・ビデオ	救えたはずの命	災害関連死から学ぶ	22分	株式会社映学社	
34	TV番組	HTB 開局55 周年記念番組「未来を創る森のチカラ」	北海道から発見！ の旅	73分	北海道テレビ放送株式会社 (HTB)	
35	博物館やイベント等における展示映像	シカマイアの翼	ペルム紀 謎の化石を追え	17分30秒	福井県立恐竜博物館	株式会社 FBCアドサービス
36	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	これからヒーロー！ #3 トウモロコシが道路を固める？！ の巻		11分06秒	国立研究開発法人科学技術振興機構	
37	映画・ビデオ	氣道を守る	～線毛細胞 微粉末生薬の知られざる働き～	14分30秒	株式会社ヨネ・プロダクション	株式会社 龍角散
38	映画・ビデオ	ロスアラモス		53分36秒	笠木絵津子事務所	

39	映画・ビデオ	湯川秀樹		72分40秒	笠木絵津子事務所	
40	TV番組	チ。	—地球の運動について—	25分	(株)スカパー・ピクチャーズ	
学生部門 短編(2本)						
41	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	「未来のおにく ばいよう肉」		3分08秒	学校法人女子美術大学	
42	博物館やイベント等における展示映像	電波天文学って？		3分27秒	東京都立科学技術高等学校	
学生部門 長編(4本)						
43	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	私を守るのは わたし ～オーバードーズの危険～		16分30秒	相山女学園大学	
44	インターネット等で配信・配布されている動画 (YouTubeなどの SNSやHP等)	それでも私は... —SL専務車掌の現在地—		31分00秒	日本大学芸術学部放送学科 映像制作・技術ゼミナール	
45	映画・ビデオ	ホワイテ		53分00秒	日本大学芸術学部放送学科卒業制作「ホワイテ」制作チーム	
46	映画・ビデオ	mirror		20分00秒	学校法人聖徳学園	

第66回 科学技術映像祭 開催要綱

第66回科学技術映像祭開催要綱
(66th Science and Technology Film/Video Festival)

令和7年3月5日
科学技術映像祭運営委員会

目 的

科学技術を正確にわかりやすく伝える優れた映像を選奨し、科学技術への関心を喚起するとともにその普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上を目指します。このため、特にデジタル時代において多様に進化してゆくメディアを効果的に用い、視聴者に強いインパクトを与えるとともに、視聴者から多様な反響の期待される映像の制作者を表彰します。

行 事

- (1) 優秀作品の選定
- (2) 入選作品の表彰
- (3) 入選作品の発表

主 催

(公財) 日本科学技術振興財団
(公社) 映像文化製作者連盟
(公財) つくば科学万博記念財団
(一財) 新技術振興渡辺記念会

運 営

第66回 科学技術映像祭運営委員会

- (1) 運営委員会は本行事に関するすべてのことを決定します。
- (2) 運営委員会は委員7名をもって構成します。

後援(予定)

文部科学省、日本放送協会、(一社) 日本民間放送連盟、(一社) 日本新聞協会、(一財) 日本視聴覚教育協会、(一財) 経済広報センター、国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会、(公財) 民間放送教育協会

募集期間

2025年4月1日(火)～ 2025年5月15日(木)(消印有効)
※募集期間が前65回までと大きく異なります。

応募資格

日本所在の製作者、企画者(スポンサー)、テレビ局、学術研究機関・教育機関および個人が製作した作品。日本に所在を持たない場合でも、作品が日本国内で公開(放送、上映または販売)された作品は応募可能です。

募集要件

(1) 2024年1月1日から2025年3月31日までに完成した作品で、本映像祭へ初出品であることが条件です。
※応募作品について完成・放映された時期の条件が前65回までと大きく異なります。

(2) 参加作品の上映時間は10分以内の短編と、それ以外で募集を行います。後者については最長90分以内です。
※後述の募集対象・部門の項目にあるように、一般部門と学生部門の2部門を設けて、それぞれにつき短編とそれ以外の募集枠が設けられました。前65回までと大きく異なっておりご注意ください。

(3) 一般部門への総参加作品数は3本まで、総上映時間は180分を限度とします。また、学生部門への応募は1本のみとし、90分を超えないこととします。学生部門への応募は、学校で作成した作品の応募、学校内外のグループで作成した作品の応募と、学生・生徒個人が作成した作品の個人名での応募(それぞれ違う作品だが、個人で応募した学生・生徒がこれら複数の

応募作品に関与しているという意味)で、学生・生徒個人が、複数の応募作品に係わっていることになりますが、これは可能とします。

(4) 応募料

一般部門への応募に対しては、1作品あたり15,000 円 の応募料の支払いをお願いします。WEB申込の際に、入力いただいた宛先に振込先等を記載した請求書を送付いたします。請求書に従って応募料の振り込みをお願いします。なお振込手数料はご負担ください。学生部門については無料です。
※前回(65回)までは、無料でしたが、66回からは一般部門につきまして応募料の支払いをお願いさせていただくことになりました。科学技術映像祭の安定した運営のため、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(5) メディア

a. 映画・ビデオ b. TV番組 c. インターネット等で配信・配布されている動画(YouTubeなどのSNSやHP等) d. 博物館やイベント等における展示映像

注1: ヘッドマウントディスプレイ等特殊な機器を使わないと再生できないVRコンテンツ等は対象外とします。

注2: メディアについて応募に該当するかわからない場合は事務局に問い合わせてください。

(6) 作品制作におけるAIの利用

後述する応募のための申込書において、応募作品の制作にあたってAIの利用の有無と、利用した場合の具体的な利用箇所等について記載していただきます。

(7) 応募作品の上映などの利活用

応募された学生部門の作品は科学館、スマホなどで自由に視聴できるものとします。一般部門の作品は、科学館などでの視聴が可能となるようご協力をいただきます。科学技術映像祭の趣旨に鑑み、広く社会に貢献できますよう、応募される皆様のご理解とご協力をお願いいたします。また、科学技術映像祭のアーカイブとして作品が閲覧できますよう、ご協力をお願いします。

募集対象・部門

参加作品は、広く科学技術に関する映像とし、次のいずれかの部門に応募するものとします。なお「科学技術映像」の明確な定義はありませんが、これまでの受賞作品などを参考ににご応募ください。

(1) 一般部門

- a. 短編(10分以下の作品)
- b. 上記以外

(2) 学生部門(大学生まで)

- ※ 社会人でも大学(大学院を除く)の学生は対象。
- a. 短編(10分以下の作品)
- b. 上記以外

賞

・内閣総理大臣賞(予定)	1作品	賞状および副賞
・文部科学大臣賞(予定)	4作品	賞状および副賞
・優秀賞	8作品以内	賞状
・つくば科学万博記念財団理事長賞	1作品	賞状および副賞
・新技術振興渡辺記念会理事長賞	1作品	賞状および副賞
・科学技術館館長賞	1作品	賞状および副賞

- ・特別奨励賞 賞状
科学技術映像に関する新たな取り組みや、科学技術映像の活用による社会への貢献が顕著な作品に対し、特別奨励賞を贈ることができるものとします。
- ・学生部門奨励賞 賞状
学生部門応募者の中から、優れたものに授与します

賞は企画者(含むスポンサー)および製作者それぞれに贈ります。
※ただし各賞において該当する作品がない場合には、受賞者はなしとします。

審 査

(1) 審査方針

本映像祭は科学技術の普及と向上並びに科学技術教養の向上を目的とするとともに、科学技術と社会との関わりがより一段と深まっている現在の状況を踏まえ、科学と社会をつなぐ、架け橋となる科学技術映像作品が求められていることに留意して審査を行います。

(2) 審査基準

a. 科学技術と社会との関係

科学や技術についての考え方、役割、課題、最新成果の理解、社会との関係性について、メッセージ性や企画意図などを審査します。

b. 正確性とわかりやすさ

科学技術の知見が正確に伝えられているかを審査する。研究・技術開発については、学術研究の映像化の価値を考慮します。

c. 演出映像・新規性

全体の構成・演出、映像表現力(撮影・照明)および技術力(音響・CG・特殊技術)などを審査する。作品の科学技術としての新規性、企画力やオリジナリティを審査します。

(3) 審査委員

運営委員会から委嘱された審査委員10名程度をもって審査委員会を構成します。審査委員会には運営委員会より委嘱された委員長1名、副委員長2名以内を置きます。

(4) 審査の方法

- a. 審査は二段階審査(一次審査および本審査)で行います。
- b. 審査は審査上映会で実施するが、必要に応じてオンライン審査を併用します。
- c. 審査における利益相反の考え方については運営委員会が別に定め、それに基づき、適切に審査を実施します。
- d. 審査方法の詳細は審査委員会で決定します。

審査期間 2025年6月～

発 表 2025年7月上旬(予定)

プレスリリースおよび科学技術映像祭HP上で発表します

表彰式 2025年7～8月(※時期調整中)

・内閣総理大臣賞受賞作品上映、表彰状授与式、受賞記念スピーチ等を行います

上映会 2025年8月～2026年3月 全国の科学館等にて受賞作品を上映します

第66回科学技術映像祭参加申込方法

(1) 科学技術映像祭公式WEBサイト

URL <http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/> よりWEB申込の上、プリントした申込書、必要書類および作品とともに下記宛5月15日(消印有効)までに提出してください。WEB申込ができない場合は下記までご相談ください。

(2) 出品作品の提出形態:

デジタルで事務処理できるものに限ります。以下のいずれかの方法で提出してください。その他の形態で出品を希望される場合は事務局にご相談ください。

※申込の際にオンライン審査に同意いただいた方は、パソコンで再生できるMP4等のファイルをお送りください。

	出品形態	再生機器	備考
①	録画用DVDディスク、録画用Blu-rayディスク ※販売用ソフトを含む	家庭用再生機器 (DVDプレーヤー、Blu-rayプレーヤー)	
②	USBメモリ、SDカード等	パソコン	MP4等のファイル

(3) 提出書類等

○申込書 1通(WEB申込の上、プリントした申込書)

○出品作品

○パンフレット等の印刷物 3部(あれば)

出品作品は事務局より後日返却いたします。

(送料: 事務局負担)

○応募料(一般部門のみ) 一般部門への応募に対しては、1作品あたり15,000円をご負担いただきます。学生部門については無料です。

上記WEB申込の際に、入力いただいた宛先に、振込先等を記載した請求書を送付いたします。請求書の指示に従って応募料の振り込みをお願いします。WEB申込をされ書類等を提出されても、応募料の振込が確認されない場合には、審査の対象にはなりませんのでご注意ください。

※一般部門は応募料が必要ですのでご注意ください。

(4) 申込締切

2025年5月15日(木)消印有効

※募集期間が、前65回までと大きく異なっておりご注意ください。

<書類・作品提出先>

(公社)映像文化製作者連盟「科学技術映像祭」係
〒103-0016東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網町ビル7F TEL:03-3662-0236 FAX:03-3662-0238

注意事項

(1) 参加にあたっては、必要な著作権処理を行なってください。万一、第三者から権利侵害、損害賠償などの主張がなされたときは、参加者自らの責任と負担で対処するものとし、主催者は一切の責任を負いません。

(2) 外国語版を出品するときは、日本語のスク립トを添付してください。

(3) 参加作品はストーリーがある動画映像作品とします。TV放送用途などでCM等が入った作品については、CM等をカットして一続きとしてください。

(4) 科学技術映像祭の入選作品を広く活用する観点から、広報活動や全国の科学館等での入選作品発表上映会や、NHK等での放送に協力してください。受賞作品は、Webサイト、新聞報道等に掲載する広報資料用に作品の写真データの提供と発表上映会用にDVD、Blu-ray等のコピー、ファイル(MP4等)の提供をお願いします。

【科学技術映像祭 事務局】

(公財)日本科学技術振興財団 人財育成部

〒102-0091東京都千代田区北の丸公園2番1号

TEL:03-3212-8487(土日祝日を除く) FAX:03-3212-0014 E-mail:filmfest@jsf.or.jp

運営体制、主催団体

令和7年7月時点（順不同、敬称略）

運営委員 ◎委員長

- ◎永野 博 (公社)日本工学アカデミー 顧問
- 井上 愉一 文部科学省科学技術・学術政策局 局長
- 善方 隆 (公社)映像文化製作者連盟 会長
- 三浦 啓一 (公社)映像文化製作者連盟 事務局長
- 佐藤 征夫 (一財)新技術振興渡辺記念会 理事長
- 中原 徹 (公財)つくば科学万博記念財団 理事長
- 木本 徹 (公財)日本科学技術振興財団 理事

アドバイザー

- 岡本 美津子 東京藝術大学大学院映像研究科教授
- 高木 啓成 渋谷カケル弁護士事務所 弁護士
- 梶 太一 同志社大学ハリス理化学研究所助教

審査委員 ◎委員長 ○副委員長

- ◎小出 重幸 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
- 丸山 剛司 中央大学研究開発機構 教授・客員研究員
- 高橋 真理子 科学ジャーナリスト
- 石上 友章 公立大学法人横浜市立大学附属病院 循環器内科 教授
- 岡田 秀則 独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ 主任研究
- 越智 小枝 東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座 教授
- 武部 俊一 日本科学技術ジャーナリスト会議 顧問
- 西野 輝彦 (一社)日本民間放送連盟 編集広報部
- 多田 多恵子 植物生態学者
- 吉川 美恵子 NHK 解説委員室 解説委員

主催団体

公益財団法人日本科学技術振興財団

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1

TEL:03(3212)8487

公益社団法人映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網町ビル7階

TEL:03(3662)0236

公益財団法人つくば科学万博記念財団

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-9 つくばエキスポセンター

TEL:029(858)1100

一般財団法人新技術振興渡辺記念会

〒105-0013 東京都港区浜松町1-25-13 浜松町NHビル5階

TEL:03(5733)3881

※科学技術映像祭ホームページ

<http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>

***66th Science and Technology
Film/Video Festival***